

石川町【福島県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：15,318人 ■面積：115.71km²
■担当課：石川町教育委員会教育課（平成31年3月現在）



町域の文化財を保存・活用・継承していくために、そして、文化財をまちづくりへの活用に結び付けるために、本構想を策定した。基本理念「つなぐ・むすぶ～文化財の継承とまちづくりへの活用～」を念頭に、基本方針を「知る」「つなぐ」「活かす」「伝える」の4本柱とし、「関連文化財群」を6項目（小項目も含めて8項目）、歴史文化保存活用区域を5区域設定して、文化財の保存と活用を推進していく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

文化の結節の地、阿武隈川東岸の遺跡群、中世石川氏、
東日本初の自由民権運動、地質資源（鉱物・岩石）

課題

- ・町民への発信力と活用の不足
- ・次代への確実な継承
- ・歴史文化及び地質資源を活かしたまちづくりの推進

保存活用方針

- ・知る(調査・価値の共有化・情報発信)
- ・つなぐ(保存・管理・整備)
- ・活かす(まちづくり・地域おこし)
- ・伝える(教育・人材育成)

保存活用のための取り組み

知る（調査・価値の共有化・情報発信）

- ・文化財の継続的調査と価値の共有化
- ・「石川町総合文化財情報」の構築
- ・調査研究成果の「見える化」（ホームページでの公開・企画展・書籍化等）



つなぐ（保存・管理・整備）

- ・「石川町指定文化財指定計画書」に基づく計画的な文化財の指定
- ・防火・防犯体制の強化と定期的な巡視
- ・文化財の適正な保存



活かす（まちづくり・地域おこし）

- ・関連文化財群の保存と活用
- ・歴史文化保存活用区域における文化財の保存と活用

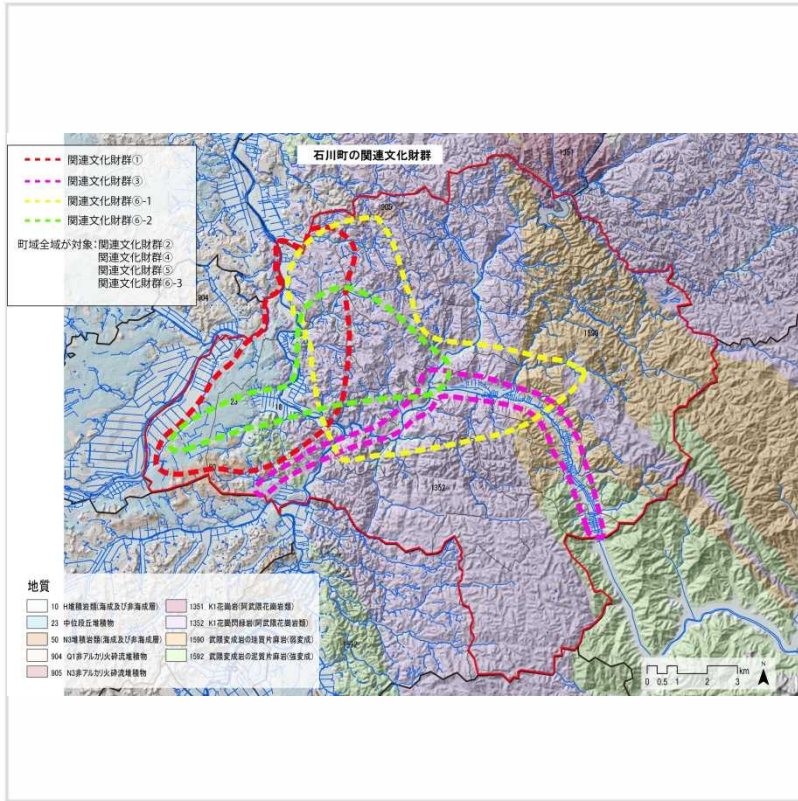


伝える（教育・人材育成）

- ・文化財継承の担い手となる人材の確保と育成
- ・各種事業・各種講座の実施
- ・学校教育及び社会教育との連携
- ・文化財公開展示施設の充実と文化財公開による普及啓発の推進



関連文化財群



本構想では、石川町の文化財を貫く最も大きなテーマを「時代と文化の結節の地「いしかわ」～石、美し、意思～」とし、本町の歴史文化の特徴である「文化の結節の地」「阿武隈川東岸の遺跡群」「中世石川氏」「東日本初の自由民権運動」「地質資源（鉱物・岩石）」に、民俗芸能、生業と生産、信仰を含め、6つの関連文化財群（ストーリー）を設定した。

ストーリー

- ① 人々の定住から「石川」誕生へ
- ② 東北と関東の架け橋・中世石川荘の世界
- ③ 街道と交通の発展
- ④ 自由民権運動発祥の地
- ⑤ 大地に根差す暮らしと祈り
- ⑥ いしかわの石の物語
 - 1：石川の大地と鉱物・岩石
 - 2：「いし」にまつわる戦争と平和
 - 3：伝承高遠石工の技と関連石造物

策定後の成果（見込まれる効果）

① 各地区の実情に合った事業展開
 歴史文化保存活用区域を5区域設定し、さらに、各地区に所在する文化財の特性、現状に応じて、行政が主体的に活用事業を行う「まちづくり区域」と、行政が地域と連携または支援を行う「地域おこし区域」の2区域を設定したことにより、各地区の実情に合った文化財を活用した事業が展開できる。



② 文化財保存活用への関心の高まり
 歴史文化基本構想に掲げた具体的な取組、例えば、関連文化財群をテーマとした文化財トレイルや、文化財マップの広報・情報発信等の推進により、地域住民の文化財に対する保存・活用への関心が高まる。



③ 産・学・民・官の連携・協働
 町域の文化財の保存・活用を、産・学・民・官が連携・協働することによって、情報や組織体制の補完だけではなく、体制の強化やマッチングによる相乗効果等が期待できる。このことは、基本理念「つなぐ・むすぶ」を具現化したものである。

